

「道を伝えて己を伝えず」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは日本聖公会初代主教であるチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教の生き方をあらわす言葉としておぼえられています。

「道を伝える」とは、その漢字の通り「伝道」です。イエス様の福音を人々に宣べ伝えることはもとより、神さまに仕えるために教会や信徒がおこなうすべての活動も、伝道と呼ばれます。

聖書を見ると、イエス様が活動していた時代の伝道の対象はユダヤ人だけでした。イエス様は弟子たちに対し、イスラエルの地以外には行くなと指示しています。またイエス様に癒やしてもらったり、関わったりした異邦人は、数えるほどしか記録されていません。そのためマルコやルカ福音書を読むと、まずユダヤ人、そして異邦人という伝道の図式が描かれているように感じます。

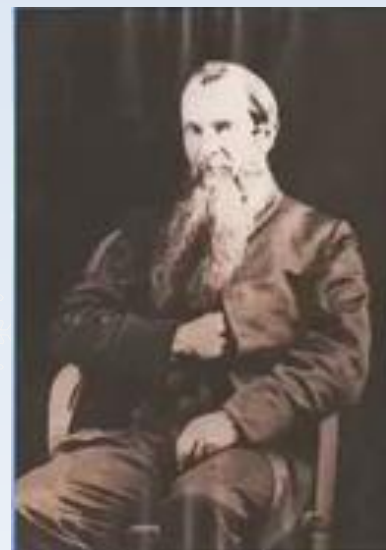
イエス様の十字架のあと、エルサレム使徒会議(使徒 15 章)において異邦人伝道が承認され、パウロや弟子たちは世界中に福音の種を蒔いていきます。キリスト教の歴史は、彼らの伝道の歴史と言っても過言ではありません。

17 世紀末には、アメリカやヨーロッパに伝道協会が生まれていきます。彼らは非キリスト教国に対し宣教師を派遣し、伝道をおこないます。そして 18 世紀から 19 世紀にかけて米国、英国、カナダの宣教師団が日本伝道をおこない、日本聖公会が創設されました。

教会はその伝道(ミッション)のために、しばしば学校などの教育機関や病院を作っていました。キリスト教系の学校が「ミッションスクール」と呼ばれるのはそのためです。

わたしたちも、「神さまの福音」を伝える伝道者として、歩んでいけたらと思います。

次回は「典礼」です。楽しみに。



「チャニング・ムーア・ウィリアムズ」
日本聖公会初代主教

(1829~1910 年)

そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの個所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

(使徒言行録 8 章 35 節)

